

動物外科看護学実習

VT コース専門科目 2年 前期・後期 90時間 3単位 実習 必修

講師 友成公一 藤田圭佑 野瀬修央

実務経験のある授業科目	有
実務経験の内容	動物病院における動物看護・受付・診察補助業務, 動物病院において院長で医師として診察・治療, 動物病院における診察・治療, 動物園における獣医療・研究・種の保存に係る業務
学科・クラス指定等	ベテリナリ-テクニシャンコース2年
学習目標	手術準備や術中・術後管理、麻酔管理、麻酔準備、麻酔監視、手術補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識を体現し、即戦力となる実践力を身につける。
学ひのキーワード	手術器具（一般、整形、歯科等） 縫合針糸 ドレープ ガウン 滅菌 消毒薬 術前準備 手洗い 手術助手 開腹手術 卵巣子宮全摘出術 去勢手術 帝王切開 整形外科手術 麻酔管理 周術期管理 モニタリング 心肺蘇生法 術後管理 鎮痛薬 麻酔薬
準備学習及び復習の内容・履修条件	動物看護入門Ⅰ、動物看護基礎実習で受講した内容を復習しておくこと。動物外科看護学講義用テキストで、実習と関連のあるところを予習しておくことが望ましい。付属動物病院院長の許可を受ければ、実習内容の復習を付属動物病院で行っても良い。
授業方法	回数3コマ分をひとくくりとして実習を行う。系列動物病院である〈動物の病院〉が実習場所となり、実際の医療器具や薬品・消耗品を使って行う。必ず白衣を着用して実習に望むこと。必要に応じて資料を配付するが、メモ帳を携行して重要事項を書き留めておくこと。医療器具撮影の限りにおいて、携帯電話の携行を許可する。原則として、学期末試験を1回実施して学習深度の向上を図る。
成績評価基準	試験において、学びのキーワードを理解していること。講義への出席30%、期末試験70%で評価する。授業内容は、スケジュールの都合により入れ替わる場合もある。
備考	動物看護の教科書第6巻（緑書房）その他
回数	授業内容
1～3	無菌、滅菌、消毒の違いについて学ぶ。また、無菌操作の重要性とポイントとについて学ぶ。
4～6	手術器具① 器具の名称を覚える。
7～9	手術器具② 器具の役割と用途について学ぶ。
10～12	写真又は実物を用いて、手術器具の名称を覚えたか小テストを行う。
13～15	術前準備① 手術室の環境管理について学ぶ。
16～18	術前準備② オートクレーブ、ガス滅菌器を用いて、手術器具の滅菌を実践する。

19～21	術前準備③ 術前の飼い主(動物の絶食・絶水・排尿等)への注意事項や術前検査について学ぶ。
22～24	術前準備④ 手洗い、術着の脱着と介助、グローブの装着について学ぶ。
25～27	術中補助① 麻酔導入時の補助、必要な器具について学ぶ。
28～30	術中補助② 動物の手術台への固定、毛刈り、術野の消毒法について学ぶ。
31～33	術中補助③ 生体モニター機器の接続とその正常範囲について学ぶ。
34～36	術中補助④ 直接補助について学ぶ。
37～39	術中補助⑤ 間接補助について学ぶ。
40～42	術中補助⑥ 麻酔の導入から覚醒までの麻酔記録の書き方について学ぶ。
43～45	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。
46～48	術後管理① 術後の創傷管理(ネット・カラーの装着、テーピング等)について学ぶ。
49～51	術後管理② 術後動物のモニタリングについて学ぶ。
52～54	術後管理③ 医療廃棄物の処理、使用した手術器具の洗い、手術室の清掃法について学ぶ。
55～57	手術体験① 犬もしくは猫の去勢手術を体験する。
58～60	手術体験② 犬もしくは猫の避妊手術を体験する。
61～63	犬の帝王切開手術をビデオで学ぶ。
64～66	内視鏡による検査や異物摘出をビデオで学ぶ。
67～69	CT・MRI検査をビデオで学ぶ。
70～72	レントゲン写真① 正常レントゲン写真で、犬猫の骨格を学ぶ。
73～75	レントゲン写真② 正常レントゲン写真で、犬猫の頭部、頸部、胸部について学ぶ。
76～78	レントゲン写真③ 正常レントゲン写真で、犬猫の腹部について学ぶ。
79～81	救急対応① 麻酔中の心肺停止の兆候と処置について学ぶ。
82～84	救急対応② 心肺蘇生法について学ぶ。
85～87	術中、術後のペインコントロールとそれに用いる薬剤について学ぶ。
88～90	器具の操作法を問う実技試験と確認のための筆記試験を行う。